

令和3年2月24日（水）

【小林地域課長代理】 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまより令和2年度第3回住吉区防災専門会議を開催させていただきたいと思っております。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私は本日の司会を務めさせていただきます地域課長代理の小林と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

現在、大阪府において緊急事態宣言が発令されているところではございますが、皆さんの貴重な意見を頂戴して区行政に防災の形で生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

また、東日本大震災から10年が経過しようとしているところでございます。災害はいつ起こるか分かりません。また、10年がたっても余震が起こっているような状態でございますので、皆さんの貴重な意見を頂戴してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

ただ、コロナ禍でございますので、こういった形で感染防止策を取りながら、ソーシャルディスタンスを保って会議をさせていただきたいと思っております。その関係で、時間が通常2時間ですけれども、なるべく時間を短縮して開催させていただきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほうをよろしくお願ひいたします。

本日は市会議員の多賀谷先生も傍聴に来ていただいております。ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、まず初めに、平澤区長よりご挨拶をお願いします。

【平澤区長】 皆さん、こんばんは。区長の平澤です。本日は、お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。皆様方には平素より市政、区政に格別のご理解、ご協力いただいておりますことをこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思っております。

ようやくコロナの緊急事態宣言も2月末で解除かなという、ちょっと先が見えてきたかなという状況にはなっておりますが、今年度1年はやはりコロナ対策に、防災につきましてもかなり振り回されたといえますか、かなり気を配る必要のあった1年だったのかなと思っております。

今日の議題で来年度の総合防災訓練の実施概要についても説明させていただきますけれども、コロナの感染状況もありますので、今の時点ではなかなか明確には言えませんが、できるだけ区民の方にも参加していただけるような方策は我々としても考えていきたいと思っておりますので、状況を見ながら、またご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【小林地域課長代理】 ありがとうございました。

本日の委員ですけれども、福留委員と吉田委員が少し遅れて来られるということでお聞きしておりますので、よろしくお願いいたします。

それと皆様方にお願いがございます。発言をされる前にお名前を言っていただいて、ご発言のほう、お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより議事進行を生田先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【生田委員長】 大阪市立大学の生田です。皆さん、こんばんは。本日の第3回住吉区防災専門会議の進行をさせていただきます。

では、まず初めに、報告事項の1、令和2年度第2回住吉区防災専門会議での意見に対する対応方針について、事務局から報告をお願いします。

【小林地域課長代理】 地域課長代理の小林です。

お手元資料の1番をご覧ください。

1つ目ですけれども、畑委員からのご意見でございます。備蓄物資の有効期限についてということで、コロナ禍の関係で備蓄物資が増えてきていると。有効期限をチェックして、いつ交換する必要があるかということ把握しておく必要があるというご意見でございます。

対応方針といたしまして、区役所のほうで備蓄物資一覧表というものを作成しております。有効期限をデータ管理しており、交換時期の把握をさせていただいています。

また、新型コロナウイルス感染症対策に伴って、現在多くの備蓄物資を避難所に配備させていただいております。避難所の運営者がより分かりやすく物資を使用できるように、備蓄倉庫に設置している備蓄物資一覧について、物資ごとに写真や用途、保存期限等を記載することにより、リニューアルをさせていただいているところでございます。

参考に、1つめくっていただきますと、備蓄物資一覧をカラーで掲載させていただいております。こちら、備蓄倉庫のほうに貼らせていただいております。上のほうから、食

料を大体300人分の物資を擁しておりますけれども、アルファ化米とかビスケットとか保存水、こちらのほうにどれぐらいあるかというのと有効期限を記載させていただいています。

その下には、コロナウイルスの感染対策の物資を記載させていただいております。

まためくっていただきましたら、これまでも配備していました立て看板とか救助資機材とかもろもろ、コロナに関するテントとか、いろんなものが掲載されておりますので、また、ご一読いただきたいというふうに思っております。

また、ほかにもこういった物資が必要だというようなご意見も頂戴してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

続きまして、また最初の資料1に戻っていただきまして、2つ目ですけれども、西上委員からのご意見でございます。在宅避難についてということで、在宅避難者の確認方法や支援方法は何かという意見でございます。

まず、各地域の一時避難場所において全世帯の安否確認をしていただくようお願いをさせていただいています。在宅避難者については、リストを作成していただき、災害時避難所の受付に提出いただくこととしてお願いしておるところでございます。

在宅避難者の食料などの物資につきましても、災害時避難所でご用意させていただいておりますけれども、原則として在宅避難者に災害時避難所まで取りに来ていただくということをお願いしております。ただし、避難所まで物資を取りに来られないというような方がいらっしゃいましたら、近所の方にまとめて来ていただくなり、運営委員会のほうで可能な限り物資を配送させていただくこととさせていただいております。

裏面のほうをご覧ください。

3つ目に、上田委員からの意見でございます。福祉避難所等についてということで、真ん中のほうから、福祉避難所等に移送されてくる方について、事前に持病であったり体調であったりの情報交換がどれぐらいできるのかということが非常に重要であるという意見でございます。

対応方針といたしまして、災害時避難所におきましては、毎日検温を行い、体温を記載した健康記録表というのを備えております。また、災害時要援護者支援台帳に登録している方につきましては、日頃から持病やかかりつけ医、服用している薬などを聞き取っておりますので、そちらを情報共有させていただきます。

また、福祉避難所等連絡会でもご相談させていただいておりますけれども、申し送りシ

ートというのを作っております、そちらの内容の整備を今後も引き続きさせていただきたいと考えております。

2枚めくっていただきまして、別紙2というものがございます。こちらの別紙2が福祉避難所・緊急入所施設への申し送りシートというものでございます。こちらを災害時避難所の福祉避難室のほうで、要援護者が来たときに、その方の、①として要援護者登録ができていのかどうかとか、お名前、住所、生年月日、電話番号などを確認して、本人の状況ということで、配慮を要する事項がどういう事項であるか、例えば、持病があったり、どんな薬を服用されているかいうところであったり、世帯の状況とか、体調とか、②といたしまして親族等の連絡先、③といたしまして関わっている事業所、④でかかりつけ医の医療機関ということで記載をしていただく予定とさせていただきます。これを福祉避難所のほうに、搬送する方は持っていってもらうというような手はずになっております。

1つめくっていただきますと、健康記録表という形になっております。こちらのほう、毎日体温を測らせていただいて、その方の状況をこちらもあわせてお送りさせていただきたいと思っております。

1番については以上になります。

【生田委員長】 ただいまの報告について、ご質問等ございませんでしょうか。

はい、畑委員、お願いいたします。

【畑委員】 医師会の畑です。

有効期限の記載もどうもありがとうございます。

この中の、今すぐというのは難しいかもわかりませんが、パルスオキシメーターも、もし可能であれば、また。救急車でも、まず乗ったらパルスオキシメーターというぐらいになっておりますので、コロナのときも、96%以上であればまず重症はないと言っていいということにもなりますので、測るのも難しい面もあるし、特に高齢者では結構低めに出たりもするんですけども、やはり用意しておくのがいいかなと思っております。

次、この申し送りシート、すごくよくできていて、ちょっと書き込むのも大変かなとは思いますが、服薬状況というのがね。みんな結構たくさん飲んでるんですよ。10種類以上ね。なかなかここに書き込めないのが普通かなと思っておりますので、可能だったら「お薬手帳あり」とかね。お薬手帳を添付しておく、薬手帳って、もちろん薬局名とかもついているし、どこが処方したという利用機関名も書いてますし、薬の名前を見たら、大体どんな病気で、量でどれだけ重いかというのもある程度分かりますので、また、そ

らのほうも。もしお薬手帳をお持ちだったら「お薬手帳あり」とかにして、一緒にひっつけておくとか、そういうのも事前に決めておかないと、お薬手帳を持ってきたときに「あれ？」とかになっちゃうので、ぜひご検討をよろしく願いいたします。

以上です。

【小林地域課長代理】 地域課長代理、小林です。

貴重なご意見、ありがとうございます。

申し送りシートにつきましては、直ちに修正をさせていただいて、また避難所のほうに設置させていただきたいと思います。ありがとうございます。

もう1つ、備蓄物資の関係ですけれども、パルスオキシメーター、購入の検討もさせていただいているところなんですけれども、大阪市の健康局で今貸出しをさせていただいていますので、そういったものを活用させていただいたり、清水丘地域のほうでは地域独自で各町会に購入されたりということもしておりますので、今後そういったものも備蓄させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【生田委員長】 ほか、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。原田委員、お願いいたします。

【原田委員】 原田です。

先ほど、備蓄の中で300食ということでお話があったんですけども、アルファ化米、これが1箱当たり50食分で1箱、それから、次が2箱で50食、これで100食ですよ。その次のはまた50ですので、200になるんやけど、ほかにビスケットとかそういうものをみんな入れての話なんですか。

【小林地域課長代理】 ビスケットも入れて300食となります。

【原田委員】 分かりました。

【生田委員長】 では、ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、報告事項の2、令和2年度第3回住吉区防災専門会議への事前意見に対する対応方針について、事務局から報告をお願いします。

【小林地域課長代理】 地域課長代理の小林です。

先週、防災専門会議の資料を送らせてもらったところ、事前に委員の方から意見を頂戴しておりますので、ご報告をさせていただきます。

1つ目ですけれども、資料2になります。

原田委員からのご意見でございます。37.5度以上になりましたら療養室のほうに誘導するというようになっておりますけれども、コロナの陽性か陰性か分からない人を同じ部屋に入室させてよいのかという判断基準はどういうことかという意見でございます。

対応方針といたしまして、37.5度以上の発熱やせき等の症状がある方については、療養室のほうに避難していただくこととしております。療養室については個室とすることが望ましいところではございますが、教室等、なかなか限りがございますので、教室の中で個室の設置が困難な避難所については、簡易テントやレジャーシートなどで専用スペースの設置を行ってまいりたいと思います。また、マスク着用やせきエチケット、手指消毒の徹底をすることで感染防止に努めてまいります。

なお、既に新型コロナウイルス陽性者、自宅療養者も含めてなんですけれども、また濃厚接触者の方については、1週間ごとに我々防災担当のほうにリストが届きます。その方々には、あらかじめ次のように周知をしてまいります。陽性者、自宅療養者については、在宅避難が困難な方については、区役所に連絡の上、宿泊療養施設のほうに避難いただくこととしております。濃厚接触者につきましては、災害時避難所とは別の区指定コロナ避難所、老人センターと住吉区民センターを考慮しておるんですけども、そちらのほうに避難していただくこととさせていただいております。ですので、この両者は、我々のほうから事前に連絡させていただきますので、直接、災害時避難所に行くということはありませんが、その場合は区役所の本部に連絡をいただければと思っております。

裏面をご覧ください。

2つ目に、福留委員からの意見でございます。総合防災訓練について、地域や町会等によって危機感のあるところと、なかなか進んでいないところがあるという意見でございます。また、実際に進んでいない地域に対して集中的に区のほうで介入してはどうかというご意見です。それと、避難所にあるものを使用して、時間制限を設けた開設訓練を与えられた時間内での出来栄を競うようなイベントみたいな防災の訓練ができないかという意見でございます。

対応方針といたしまして、区役所職員がすぐに避難所へ到着することがなかなかできないために、災害救助部長を中心として防災の取り組みを行っていただくように地域の方々にはお願いをしておるところでございます。しかしながら、地域や町会によって温度差があることについては、我々のほうでも認識はさせていただいておりますが、進んでいると

ころについてはなるべく地域の自主性に任せて、進んでいないところについては、積極的に介入して地域が自主的に実施していけるように支援するなど、地域によってメリハリをつけた対応をさせていただきたいと考えております。

また、防災イベントにつきましては、平成25年度に全12地域対抗の防災フェスタというものを実際開催させていただきました。防災障害物競走とか防災クイズ、緊急物資搬送リレーとか、そういったものをさせていただいて、競い合っていたいただくと。非常に楽しんでいただいたんですが、身になるというところとどうなのかなというところもありまして、総合防災訓練のほうに切り替えたというような形になっております。防災イベントにつきましては、本会議や各地域においてご意見を頂戴して、実効性のある取り組みを進めてまいります。ありがとうございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、引き続き、報告事項の3、令和2年度第3回区政会議における防災に関する意見要旨について、事務局から報告をお願いします。

【世古地域課長】 地域課長、世古です。

主なご意見としまして、運営方針の素案に関わりまして、町会に入っていない方が多い地域もありますので、町会役員さんだけでなく、民生委員さんにもお声かけして協力を願ってはどうかということと、要援護者の状況の変化の有無を返信できるようなはがきを留守宅に投函するというふうな形で把握すると。非接触型の活動になっておりますので、その辺の情報交換は大切ではないかというご意見でした。

対応方針としまして、既に民生委員が見守り活動などに参加している地域や民生委員との連携を検討している地域もあり、町会未加入者への対応などに民生委員の協力を得られるよう働きかけてまいります。顔の見える関係づくりのためには、年に1度は直接お会いして状況を確認することとしておりますが、詐欺の可能性を心配するなどして応答しないという方も出てきておりますので、はがきの活用ということも検討してまいりたいと考えております。

資料3の裏面に移ります。

ご意見としまして、コロナ感染リスクの高い疾病・持病を抱えている要援護者に関して、避難時にさらに感染予防対策が必要である旨の情報として状況を把握しておく必要があるのではないかとこのこととございまして、支援台帳といわれるものには要援護者様の氏名、住所、緊急連絡先などを記載しておるところですけれども、それと同時に、併せ

て同意書という書類も頂戴しております、そこに医療情報を記載させていただいていると。また別途、個別支援プランというものにも、避難所などでの具体的な配慮事項、治療中の病気、内容、使用薬の量とか、医療機器の必要な旨を記載する欄を設けておりますので、これをコロナ感染予防対策として活用できる情報として把握できるようにしてきております。

最後の意見で、防災意識や被災時の対応力、被災時に向けた準備が年々向上しているのは結構なことなただけでも、アンケートによりますプロセス指標で、「ここ一、二年お住まいの地域の防災力が向上したと感じている区民の割合」というのは、令和元年では43.6のパーセンテージやったんですが、反対に言えば56.4は向上したと感じてないと、こういったことの分析も必要ではないかというご意見でした。

こちらにつきましては、地域防災力が向上していると多くの方が感じるように対策を講じていくということと、今年の令和3年の2月に実施が済んでおります区民意識調査を使って、地域防災力が向上したと感じていない要因についての分析・対策を検討していくこととしておりますというご報告をさせていただきます。

以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、ただいまの報告についてご質問等がありますでしょうか。

畑委員、お願いいたします。

【畑委員】 医師会の畑です。

先ほどの分も一緒ですが、熱が出たときに一緒の部屋に入れるのはどうかという話なんですけど、実際、臨床的に検査なしで熱が出ている人がどちらかというのは難しいですね。また、コロナの検査も、陽性だったらプラスだと言えるんですけど、陰性だったらやっぱり3割見落としがあるということなので、陰性の場合、何回も検査しないといけないので、また難しいのが一応バックグラウンドでありますので、どっちか分からんような熱の人であれば、やはりもう陽性者と思って、濃厚接触にならないような付き合い方ですね。必ずマスクをつけるとか、なるべく1メートル以上、マスクを外すときは必ず1メートル以上離れるとか、そういう対応が要るかと思います。

今話題になっているワクチンですよ。あれを打てば、かなり陽性になる確率が減りますので、ワクチンの接種歴も今後こういう要援護者台帳とかにワクチンの情報も入れておくと、発熱者を診たときに、ワクチンを打った人で発熱したと、それがコロナである確率

というのは5%以下とかになりますので、下手な検査で陰性より信頼性が高いというぐらいいになりますので、今後ワクチン接種の有無もチェックされるほうが、この世の中の時代に合うんじゃないかなと。ちなみに、私は、もう1分1秒でも早く打ちますし、個別接種をうちのクリニックでもやりますし、集団接種にも協力するとしておりますので、皆さん頑張って接種を受けるように。ものすごく性能がいいので、今までと違うワクチンなので、ぜひ機会があれば、ここに出席されてる人も一人でも多くの方が受けられるよう望んでおります。

以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほかにご意見、ご質問等。原田委員、お願いいたします。

【原田委員】 原田です。

先ほどの避難所のコロナの人はどうすりゃいいの、コロナかどうか分からないですけども、そのときに、私は本部長をやっているものですから、皆さんからというか、役員の方から、この人37度、このぐらいやけども、どの部屋にいればいいんですかとかいうような質問が来ると思うんです。そのときに私のほうで、じゃあ、ここに入っといってくださいとかいうことを判断するというのが大変だと思っているんです。

というのは、後からもしその人がクラスターというか、一応そういうふうな形になって、その部屋へ入れたがために、ただ体温が高かっただけで入れたのが、その人も移っちゃったということになったら、こっちの責任になるのかなという感じもありますので、その辺がちょっと自分としては荷が重いなということで質問させて。前回もちよっとそういう話をさせてもらったんですけど、やはり腑に落ちないというか、どこでどういうふうに。最初から陽性の方についてはそうかもしれないんですけども、同じ部屋に。

私のところの場合は、幸い教室4つほどをそういう療養室にしようというような形で置いていますけども、中に仕切りをしてとか、いろいろあってもその部屋の中に一緒に入れていいものなのか。その辺のところがちょっと一番関心事といいますか、悩むところなので、その辺をどういうふうに皆さんの場合はやっていけばいいんだというふうなことはあるんでしょうか。ひとつ、その辺をもう1回お願いしたいと思います。

【生田委員長】 畑委員、お願いします。

【畑委員】 正直言って、検査なしで判断することは誰でも無理なんですね。別に荷が重いと思わずに、もう機械的にいくしかないんですね。やはりこちら辺で、7度5分で区

別するしか今のところ仕方ない。7度5分以上の人は1つの部屋に固めて、その中でなるべく濃厚接触しないように。同じ部屋に入れただけじゃ移りませんのでね。濃厚接触にならないような工夫をされるというのが現状ですし、また、責任を問われるものでもございませんので、胸を張って「7度5分でわしは決めたんや」と。正直言って、症状がなくてもコロナに感染していて、実は感染している可能性ってあり得るので、もうきりがありません。だから現実問題としては7度5分の発熱で区切るとというのが現状かなと私は思います。

以上です。

【小林地域課長代理】 地域課長代理の小林です。

畑先生、ありがとうございます。基本的には、区役所職員が現場に到着している場合は、なるべく地域の負担も避けるために、我々職員が温度を測ってこちらの部屋にということと案内のほうはさせていただくように、なるべく迅速に現場に足を運べるようにさせていただきますので、それまでの対応については、今畑先生がおっしゃっていただいたような対応で、なるべく避難所のほうにテントであったり、段ボールであったり、そういった感染防止備蓄物資をより多く搬送、配備させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、次に進みたいと思います。

報告事項4、令和2年度住吉区総合防災訓練実施結果について、事務局から報告をお願いします。

【佐藤地域課担当係長】 皆さん、こんばんは。防災担当の佐藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

座ってご報告させていただきます。

資料4です。お手元のほうにお願いします。令和2年度の住吉区総合防災訓練の実施結果報告でございます。

まず、総合防災訓練につきましては、今回、コロナ禍での実施ということで、防災専門会議の皆様にもご協力をいただきまして開催することができました。ありがとうございます。この防災訓練は、区災害対策本部の初期初動体制の実効性の検証、また災害時の避難所の開設・運営が円滑に行えるように、行政と地域住民とが連携して地域の総合防災力

を高めていくという目的で実施をさせていただいております。

日時につきましては、昨年11月14日土曜日の午前9時から12時の間で実施をさせていただきました。実施場所につきましては、各区内の災害時避難所や、本日、この会場、区災害対策本部になっておりまして、区役所での訓練、また区民センターでの訓練、住吉消防署等での訓練を実施させていただいております。

参加者につきましては、今年度は約1,000人ということで、令和元年度につきましては、広く区民の方にご参加を呼びかけて実施をさせていただいておりますが、今回につきましては、コロナ禍の中で対象者を限定させていただいた形で実施をいたしております、1,000人ということにとどまっております。

参加者の内訳につきましては、地域活動協議会の役員の皆様と地域防災リーダーの皆様で約600人、区役所の職員213人、住吉区在住の大阪市職員の直近参集者ということで、こちらが56名の参加となっております。そのほか関係機関約100名といった内訳になっております。

訓練内容につきましては、住吉区の災害対策本部の設置・運営訓練、また、各災害時避難所に職員を派遣して地域の皆様と一緒に避難所を開設する訓練、応急救助訓練ということで、住吉消防署にご協力をいただきまして、救助班を中心に救助訓練をさせていただいております。また、社会福祉法人ライフサポート協会のご協力をいただきまして、防災ディスプレイも区民センターで実施をさせていただいております。

各地域におかれましては、地域の災害対策本部、避難所運営委員会の設置・運営訓練等を実施させていただいております。

そのほか、災害ボランティアセンターとの連携訓練ということで、住吉区社会福祉協議会のほうと連携をしながら訓練を実施させていただいております。また、福祉避難所、緊急入所施設等との連携訓練も実施をさせていただいております。

また、区本部の訓練におきましては、大阪急性期・総合医療センター、また住吉区の医師会、薬剤師会、歯科医師会の方にもご参加いただきまして、また福祉避難所皆様にもご協力をいただきまして、i i s u m i の入力訓練であったり、情報を集約しながらEMISに入力をしていく、被害状況を取りまとめていくといった訓練も実施をさせていただいております。

資料をめくっていただきました2ページ目、裏面に今申しあげた各団体の訓練等の記載をしておりますので、また、ご一読願えればと考えております。

3 ページ目以降は、訓練の様子ということで、写真をつけさせていただいております。白黒になっておりますので、見にくい点があるかもしれませんが、まず、災害時避難所での訓練ということで、参集をいただいて、参加者の検温、そして地域災害対策本部、避難所運営委員会の設置、区役所の災害対策本部との無線通信訓練をさせていただいております。また、各避難所のほうでは、一般避難者スペースの設えでありましたり、療養スペースの設えということで、こちら、学校にあるものを活用して、椅子であったりビニールシート、こういったものを活用しながら、感染防止対策として囲いを作っていくという訓練もさせていただいております。

ページをめくっていただきまして、4 ページでございます。

こちらのほうは、感染防止対策ということで、ガウン、防護服、フェイスシールド等も着用いただいております。また、受付を設置したり、そのほか避難スペースのほうで、段ボールベッドの設置、またコンパネを使用したベッドということで、学校にあるものも活用しながら、こうしたベッドの設置であったり、簡易トイレの設置ということもさせていただいております。また、あわせまして、備蓄倉庫の確認ということで、災害時の備蓄物資についても確認をさせていただいております。

5 ページにつきましては、区災害対策本部の訓練でございます。会場、ちょうどこの会議室になっております。こちらのほうでは、区災害対策本部を設置しまして、各地域災害対策本部と無線通信訓練によりまして被害状況等を収集・集約をしております。また、広報班としまして、ツイッター等も活用しながら情報発信の訓練をさせていただいております。また、保健福祉班のほうでは、i i s u m i によりまして、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ステーション、福祉避難所のご協力もいただきながら、また災害時避難所に派遣しております当区職員からの報告等も受けまして、情報を集約してEMISに入力をしてまいりました。

6 ページのほうは、そうした取りまとめした内容をホワイトボードに掲示しまして、地図への落とし込み、またポイントについては、ホワイトボードのほうにペンで記載をして集約してきたというところでございます。

続きまして、7 ページに移らせていただきます。こちらは参加者からのアンケートの結果でございます。

1 問目が、災害時避難所の開設、新型コロナ禍対策訓練はスムーズに行えたかという問いでございます。こちらは、「スムーズに行えた」が76名、「概ねスムーズに行えた」163名

ということで、合わせまして約80%を超える方から「概ねスムーズに行えた」という回答をいただいております。

2 問目は、今後どんな訓練が必要だと思うかという問いでございます。こちらのほうは複数回答ありということの項目になっております。一番回答が多かったのが、災害時避難所の開設・運営訓練で、50%を超える方が必要だと思うという回答をいただいております。次いで、一時避難場所・町会災害対策本部中心の訓練と水害時想定避難訓練というのが約35%で同率になっておりまして、その次が応急手当訓練、こちらのほうは90名で、約3割の方が今後必要だということでご回答をいただいております。以下、安否確認訓練、搬送訓練、無線の通信訓練、救助資機材の確認や使用訓練、消火訓練ということで続けております。

3 問目の質問は、今回の訓練でよかった点や改善すべき点といったことでございます。多くの意見をいただいておりますが、ちょっと抜粋をさせていただきます、ご報告させていただきます。コロナ禍の中で限られた人数でよくできたと思うというご意見をいただいております。また、防災リーダーの指示が分かりやすく、町会ごとに決めてあったので動きやすかったといったご意見もいただいております。

ページをめくっていただきまして、裏面、8ページに移らせていただきます。同じ避難所の人と顔合わせやコミュニケーションが取れてよかったというご意見もいただいております。また、療養スペース、段ボールベッド等、実際に設営体験できてよかったといったご意見もいただいております。

続いて、課題・改善すべき点でございます。こちらは、次ページ、9ページのほうで、訓練での主な意見・課題に対する対応ということで取りまとめをさせていただきますので、こちらのほうでご説明をさせていただきます。

9ページ、まず、災害時避難所関連のご意見でございます。備蓄倉庫が狭く、物資が取り出しづらいというご意見でございます。こちら、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策ということで、先ほど小林課長代理からもお話がありましたが、多くの物資を配備いたしております。そうした関係で、各避難所において備蓄場所が手狭になってきているといった避難所も中にはございます。地域や施設管理者と引き続き調整のうえ、備蓄場所の確保に努めてまいりたいという対応方針でございます。

続きまして、1人当たりのスペースが4平米となったことにより避難場所が足りないといったご意見です。こちら、引き続き施設管理者と調整を行い、新たな避難場所の確保

に努めてまいりたいと思います。今年度、このコロナ禍での取り組みということで、災害時にこれまで学校のほうで避難スペースとして使わなかった教室も含めて、学校施設管理者にできる限りより多くの部屋・教室等を使わせていただきたいということでお願いをさせていただきまして、学校のご協力も得まして、これまで使わなかった部屋を使わせていただけることになっております。しかしながら、まだ想定される避難者数の受入れには届かない状況でございますので、引き続き、新たな避難場所を確保していく取り組みを進めていきたいと思っています。

現時点では、災害時避難所に加えて、地域協力事業者の協力を得まして、建国幼・小・中・高等学校に協力をいただき、災害時には避難者を受け入れていただけるという協定も締結させていただいておりますし、関西研修センターにも趣旨はご理解をいただいております。今後、具体的な取り決めを行うなど、避難スペースの確保を進めてまいりたいと考えております。引き続き、新たな避難スペースの確保についても検討していきたいと考えております。

また、今回、在宅避難の推奨ということで、自宅が安全な場所にある方については、在宅での避難ということについても、区役所としても周知をしてまいりたいと考えております。

その他、災害時避難所の関連で、事前の模擬訓練をもっと実施してほしいということもございます。今年度はコロナ禍の状況にあって、感染状況の影響により、最低限の訓練の実施となっております。次年度については、こうした状況を注視しながら具体的な実施方法を検討してまいりたいという対応方針です。

同じく災害時避難所で、ペットの保管場所について検討してほしいということです。こちらについても、避難所開設・運営マニュアルを今回コロナ禍版として見直しをさせていただいております。引き続き、このマニュアルを精査しながら、地域や学校と連携をしつつ適宜見直しを行ってまいりたいと考えております。

同じく災害時避難所で、備蓄物資について様々な物資が必要となると思うので、引き続き予算措置をお願いしたいといったことでございます。地域や防災専門会議等の意見をいただきながら、引き続き必要物資の検討や予算措置を行ってまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

次に、裏面、10ページになります。こちら、項目が変わりまして組織についてという項目でくくらせていただいております。

役割分担が訓練当日に指名されるため、災害時はどう動くかを前もって役割を決めておくべきだといったご意見でございます。こちらも貴重なご意見でございます。避難所運営委員会の組織について未設定の地域に対しまして、あらかじめ作成いただくよう周知もしてまいりたいと思っております。

また、今後取り組みたい訓練といったことで、水害時を想定した訓練、津波避難訓練、AEDの使用訓練、応急手当訓練、消火訓練、無線通信訓練、車椅子による搬送訓練など、様々な訓練について実施すべきというご意見をいただいております。とりわけ水害を想定した訓練につきましては、学校及び地域役員と連携をしながら実施について検討してまいりたいと考えております。なお、住吉区総合防災訓練時にいろいろな訓練項目を盛り込むのは限界が生じる場所もございますので、総合防災訓練の中でできない訓練については、別途、地域・町会ごとの訓練の中で実施できるように支援をしてまいりたいという対応方針でございます。

私のほうからは以上でございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、この件についてご質問等いかがでしょうか。

では、畑委員、お願いいたします。

【畑委員】 医師会の畑です。何度もすみません。

この写真も見せてもらったんですけど、全てマスクをつけていまして、うまく感染予防はできていると思います。ただ、先ほども言いましたように、濃厚接触というのは、マスクを外すときに結構危険なことになりますので、食事は、この中でしたかどうかはちょっと見てないんですけど、食事中は黙って食事するというのも。だから、学校の給食もみんな同じ方向を向いて黙って食べるというのを徹底されているようなので、おかげでクラスターが起こってないと。僕らみたいなクリニックとか、介護施設でもそうなんですけど、やっぱり休憩時間の食事というのが結構危険なので、黙食というんですか、沈黙の黙に食、これを徹底すればいいかと思うので、また、そのことも周知よろしくお願いいたします。

以上です。

【佐藤地域課担当係長】 貴重なご意見、ありがとうございます。

今年度の総合防災訓練についても、ある地域では、炊き出しの訓練を実施している地域もございます。ただ、当日食べるのではなくて、持ち帰っていただいて食べていただくといった形で、今回についてはそういう取扱いをさせていただいております。

畑委員からありましたご意見につきまして、炊き出しの訓練のニーズも非常に高いものがございます。黙食等、感染を防止する観点の周知も行いながら、訓練の実施を検討してまいりたいと思っています。ありがとうございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

畑委員にお聞きしたいんですが、じゃあ炊き出し自体はそこまでリスクが高くないで、みんなで食べるという行為がリスクが高いという理解で。

【畑委員】 マスクを外してしゃべるとというのが駄目。黙って食べていたら、こうやって皆さん食べていたら大丈夫。

【生田委員長】 黙って調理していれば、そこまでリスクは高くないと。

【畑委員】 食事するとき、どうしてもマスクが邪魔になりますよね。だから、そのマスクを取るというのがものすごく危険な行為になるので、そのときに黙ってご飯だけ一生懸命ちゃんと食べてくれたら感染はしない。

そこで、口の中でもぐもぐしながらマスクをせずに、横の人とぺらぺらしゃべると、かなり飛沫が飛ぶので、食べているときは黙る。しゃべるときはマスクしてしゃべると。これを徹底すれば問題ないと。

【生田委員長】 料理を、食事を作るという行為は。

【畑委員】 作るのは全然問題ありません。みんなマスクして、多分作りますよね。マスクしていれば、まず大丈夫。だから、濃厚接触者にならないんですよ、両方がマスクしていたら。だから、それも実績があるみたい。マスク、マスクで移らないみたい。

以上です。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、ほかの委員も訓練に参加されたと思うんですが、何か感想等あれば。

北委員、お願いいたします。

【北委員】 北です。

うちの地域は大変遅れておまして、先ほどから進んでいる地域と遅れている地域、役所の方にも大変ご迷惑をかけていると思うんですが。今回は人数も少なかったし、割と十分なことはできていなかったのが現実です。ここ5年間のうちで人数が一番少なかったのも、防災リーダーをメインにやらせていただいたんですが、ただ、1つは町会長さんからの防災リーダーの連絡というのでないので、災害救助部長からの防災リーダーのほうの連絡なので、その辺がちょっと町会長さんの連中は気に入らなかったような感じでした。

それと、やっぱりちゃんとした研修を受けてやっているんだけど、うちはもう船頭が多くて、大変難儀しているわけですね。だから、やっぱり命令系統をちゃんとつくったはずなんだけど、今そういう状態で、大変遅れております。

それと、やっぱり皆さんの町会長の危機感がものすごい薄い。うちは大丈夫やと思っている。原田さんとかなんかは、大和川のああいうことがせっぱ詰まって起こっているわけですね。そういうことがないものですから、大変意識が低いというのがあって、協力というより見学に来るほうが多いわけですね、今までからずっと。役を充てていても、町会長と町会の人を連れて見学に来るような程度でございますので、協力の得られるのが少ない、住吉連合はそういう状態です。だから、そういう意識を持ってもらいたんだけど、何遍言うてもあかんわけですね。だから、そこら辺のことをちょっとほんまに考えんと、この会議に出させてもろうて、ほんまに悲しいなと思って帰るわけですね、毎回。そういう意識を持ってもらいたいというのが僕のあれですけども。大変ご迷惑かけて申し訳ないですけど、よろしゅうお願いします。

【佐藤地域課担当係長】 貴重なご意見ありがとうございます。北委員からは、前回第2回の会議でもご意見いただいていたかと思っておりますけども、今回コロナ禍の状況で、区役所としても苦渋の判断ということで、対象を地域活動協議会の役員さんと防災リーダーさんに限定させていただいて訓練を実施してきたところでございます。次の議題では次年度の総合防災訓練についてご議論いただきたいと考えておりますが、私どもとしては、できる限り北委員のおっしゃるように、町会の役員さん含めまして、参加もいただきながら、防災意識の底上げ、地域防災力を向上していきたいというふうにも考えているところでございます。貴重なご意見ありがとうございます。

【生田委員長】 ほかにいかがでしょうか。

西上委員、お願いいたします。

【西上委員】 区社協の西上です。

災害ボランティアセンターの訓練では、区役所の皆様に協力をいただきましてありがとうございます。そのときに無線の訓練をさせていただいておるんですけども、まず、区社協が浅香のほうにありますので、なかなか無線が届きにくいということで、無線を使っての通信というのは難しいのかなというふうに感じております。

実際、災害のときに携帯とかが使えるのかどうか分からないところではあるんですけども、例えば携帯電話であったり、あるいは、もう最後は人力、伝令を出すとか、何かそう

いうふうなこともちょっと訓練としてはやっというほうがいいのかなど。無線が使えないと、毎年こちらのほうと区役所さんのほうでそういうふうな話が出たまんま、そのままになっているというふうなことも聞いておりますので、そこら辺も何かしらの通信の方法を考えていけたらなと思っています。またご検討のほうよろしく願いいたします。

【佐藤地域課担当係長】 ご意見、ありがとうございます。西上委員におかれましては、今回、訓練にご協力いただきまして、事前に簡易無線の通話テストもさせていただきました。確かに、委員がおっしゃるように、住吉区社会福祉協議会の建物の中ではちょっと聞こえなくて、屋上に上がっていただいて何とかつながったといった状況でございます。

そうした状況の中で、委員のご指摘のとおり、無線も1つのツールということで考えておりますので、この無線で通信を100%補おうということではなくて、いろいろなツールの活用についても引き続き検討してまいりたいと思っております。また、住吉区社協の中畷事務局長からも区社協でアンテナをつければ通信状態が改善されるのかということでご意見をいただいております。以前、住吉武道館のほうで、過去に地域でアンテナを設置した経緯もあり、アンテナをつけることによって電波の状況がよくなるといった可能性もあることから、そういったご紹介もさせていただいているところでございます。

引き続き、区役所も区社協と連携をしながら取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。福祉避難所等はいかがでしたでしょうか、訓練は。

上田委員、お願いいたします。

【上田委員】 上田です。

無線はやっぱりどうしても入りにくいかなとは思いましたが、これはもう仕方ないかなというふうに思っております。今おっしゃったように、1つのツールとして無線があるというのは、それはそれで施設にとっても非常に助かるかなというふうに思っております。

あと、福祉避難所の開設の訓練をもう少しできたらなというふうには思っております。例えばライフサポート協会さんとかだったら、すごく訓練されているので分かると思うんですけど、うちも数年前に実際区役所の方に来ていただいて、開設訓練をさせていただいて非常に勉強になりましたので、これは福祉避難所等連絡会の中での話にはなってくると思うんですが、そういう機会があればなというふうには思いました。

以上です。

【佐藤地域課担当係長】 ありがとうございます。上田委員からも貴重なご意見をいただきました。今年度は、コロナ禍ということで、福祉避難所等連絡会も1回しか開催ができておりません。また、コロナの状況がございますけども、来年度は委員からおっしゃっていただいている訓練についても福祉避難所等連絡会での議論もさせていただきたいと思っておりますし、区役所としましても福祉避難所等との連携を深めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【生田委員長】 石橋委員、お願いします。

【石橋委員】 石橋です。

上田さんおっしゃったように、私も福祉避難所の開設の訓練はぜひやっていただきたいし、総合防災訓練で難しかったら、別途またそういう場を設けてもらうとか、また、やっているところをちょっと見学させてもらうとか、いろんな方法でそういう訓練というのはぜひ一緒にやっていただきたいなということと、さっきの無線のことも、今回、結構時間を、何時に来るよみたいなものを書いてくれたのはすごくありがたかったです。前はいつ来るのかな、いつ来るのかなみたいな感じだったんですけど、でも、実際に来たときにはそういう状況なのかなとかと思いながらも、今回ちょっと一緒に参加はさせていただいていたんですけど、ぜひそういう福祉避難所の開設についても、また皆さんと一緒にやっていけたらなと思います。お願いします。

【佐藤地域課担当係長】 ありがとうございます。石橋委員からも貴重なご意見をいただきました。今年度、先ほど話をいたしました福祉避難所等連絡会のほうが1回しか開催できておりませんけれども、中身的には非常に有用なものがあったかなと思っております。ライフサポート協会の方の講師、コーディネーターに基づいた防災ディスカッションでの話も身に迫る非常に貴重な体験でしたし、また、各施設のほうからは、新型コロナでクラスターなり感染者が発生したというところでの対応についても共有ができて、非常に有意義なものだったかなと思っております。

石橋委員からの話にありますように、福祉避難所等連絡会等での議論は継続しながら、福祉避難所と区役所との連携訓練も、この総合防災訓練の中での実施となるかどうかはありますが、そうした訓練の検討というのも非常に有効なものと考えておりますので、引き続き、ご議論をいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【生田委員長】 ありがとうございます。

福留委員もいかがでしょうか。

【福留委員】 北委員の話、すごくやっぱり大事だなと思ってまして、今回、どうやったら動機づけというか、できるのかなというところでちょっと提案させてもらったというのもある、本当におっしゃられるように、傍観者というか、これって他人事になったら絶対困るというのは個人個人が持たないといけないんですけど、誰かがするってなったときに、誰が戸を開けるんだとか、そこからまた始まっていて、反対に、どうやったらその動機づけができるのかというの、できることってあるんでしょうか。

同じ町会でありながら、すごく温度差があるのも分かりますし、やっぱりそこは声を上げた人を中心に動くと絶対あかんんですけど、何かそれが先ほどおっしゃったみたいな感じになるという地域性というのがね。その意識をどう変える。本当に有事のとき、そんなこと言ってもらえないんですけど、そこで何かもめごとが起こるような現状というのは避けたいなと思って。何かその動機づけの訓練ってどうやっていったらいいんでしょうかねみたいなところはあるんですけど。よそとかではそんなのされているんですかね。

【北委員】 うちのことを言っていると思うんですけども、役は一応つけてあるんですけども、やっぱり来ないんですね、ちゃんと。それと、4年ほど前の台風がありましたね。避難所開設というので、僕はそれはもう分からんままに走って、鍵を開けて、小学校を開けてさせてもらったんですけども、連絡かて、結局ここから全部しているわけですね。開けてくれという連絡があって、それから1人で走って行って開けたような状態でしたのでね。それが初めての経験ですね、こういうのをやったのが、実践で。だから、そのときにも思ったんですけど、みんな意識ないねんね。やっぱり人ごとですねん。お年もいってる町会長さんも多いし、電話しても来ない人もいるし、いっぱいでしたよ。

そんなのから思うたら、また来てくれて、いろんな足りないものを持って来てくれる人間もいるし、最終的に僕らかて、2時頃かな、あれ、解散になったわけですね。そのときに感じたことは、やっぱり避難者がなかったことと、一応学校の戸締まりをして帰って、そのときに校長先生も来てくれましたわ。避難所を閉めて、それで帰った。後で感じたのは、やっぱり意識が少ない。

それと、何も持たずに行ったものですから、やはりお手伝いの人のお茶とか、そういうふうなものもちょっと考えないかなということもちょっとある人間と話したものですから、もし緊急のときはスタッフだけの分だけでもええからおにぎりかお茶ぐらいはちょっと

と用意しようかというような話も一遍出たことあるわけ。

だから、まず、そういう避難命令が出て避難所開設といったとき、ちょっとコンビニにでも寄ってそういうふうなことをしようかいうのを何人か、意識ある人間はやってくれるわけですよ。ない者はもう、来て、はいどうぞ、これやってくれ、あれやってくれって指示待ちですわ。

だから、うちの連合の問題点はたくさんあるんですけども、ただ、私が災害救助部長をさせてもらうたときから住吉区総合防災が始まったので、もうほんまに分らんままに来たんですけども、やっぱり学校をよく知るとか、避難所をよく知るということをせんと、住吉小学校はものすごく広いんです。それと講堂は3階になるわけですね。講堂じゃない、体育館が。下が講堂なんだけども、どないして避難してもろうたらええかというようなことも、まず、そこら辺から考えないかん。

それと、全て鍵が違いますので、その鍵のスペアキーも作っていただいたんですけども、全部把握できへんわけですわ。だから鍵を持って走り回らなあかんような状態ですわ。

そういうふうなもんからずっとやっていって、やっと分かり出したときに、私は4年でやめさせていただいたんですけども、それで次またやっていかなあかんわけですわ。去年の総合防災のときかて、一応、本部をこしらえて、ちゃんと指示はしはってんけども、動けへんね、やっぱり人間が。分かっているもんやから、こっちが走り回ってやっていったような状態でしたので、十分なことはできてなかった。最低限の人間が欲しいんだけど、その人間も足らんかったような状態ですわ。そやから、どれぐらいの意識があるんかな。会長、副会長が本部におるのはええんやけど、分からへんしね。ほんまに走り回ってる人間何人か、四、五人寄ってこうしよう、ああしよういうふうな状態ですわ、やっぱり。役にについても分からへんねん。そやから、もっと小ぢんまりとして避難所1つずつの訓練をせんと、一遍にぱつとやったって無理だなと思いました。

【福留委員】 実際は、じゃあ、総合防災訓練までの訓練が要るということですよな。

【北委員】 そうです、そうです。それを今、話を聞いていて、させてもらわないかんなどは思いますわ。

【福留委員】 ですね。もし何かお手伝いできることがあれば。一番初めに総合防災訓練をやるうっていったときには、結構その辺りの打合せ等々もしていたので、そのノウハウも生かしながら何とか動くような形で。

【北委員】 もう最初から問題とか文句を言われて、わーっという、その時間を取られ

て、どうやこうや言うとする、そんな始まりでしたわ。えらいすみません。

【福留委員】 とんでもないです。何かゲームとかしながらそういうことができるんだったらいいなとか思いながら。何か動機づけって。

【生田委員長】 そうですね。我が事意識がないというのは、どこの地域でも課題だとは思いますが。ひとつ関心を持ってもらう方法として、コロナでもそうですが、今、例えば大阪で何百人感染、陽性と聞いても、恐らく多くの人の心にあまり響かないと。ああいう大きな数字を出しても響かないというのがあって、ある研究によると、一番意識が変わったのは志村けんさんが亡くなったことという研究もあるんですね。なので、ああいう具体的な、身近な人というわけではないんですが、実際に亡くなるという、被害を本当に現実的に体感したときに人は変わるといえるものもあると思いますので、防災に関しても、すぐに体感することはもちろんないんですが、災害の被害というものを実際繰り返し繰り返し知ってもらおうと。つまり、あなたの家が壊れたらこうなりますよ、あなたのご家族の命がなくなるかもしれないとか、大きなけがをさせていただきますよとか、あるいは避難所でこういう大混乱になってしまっただけで、最悪避難所でも命を落とす方がいらっしゃるかもしれないと、そういった現実をやっぴりもう一度きちっとお伝えして、見てもらった、イメージしてもらったときに、さあどうしようかとなるのかなと思います。

ですので、やはり一般的な情報とか、イメージしにくい情報とか、マニュアルを示してやってねというだけではなかなか本気になってもらえないというのがあるかなと思いますので、とにかく、あの手この手でしつこく防災のことをいろいろとやっていくということと、あとは裾野を広げるというのでもいいかなと思いますね。ふだんの地域活動に参加されてない方でも防災には興味があるという方も恐らく地域にはいらっしゃいますので、裾野を広げておけば、将来、かなり有望なリーダーとなってくれる人が見つかるかなということも思います。防災のことを誰も否定はしないと思うんですね。温度差はあると思うんですけど、防災なんかやらんでいいやろうというあんまり多くないと思いますので、何か防災というのを1つのきっかけにどんどん裾野を広げていただくというのでもいいかなと思います。また、何かお手伝いできることがあればと思います。

すみません。長くなりまして。ありがとうございます。

では、次に進ませていただきます。

では、議題1に入ります。令和3年度住吉区総合防災訓練の実施概要について、説明をお願いします。

【佐藤地域課担当係長】 防災担当の佐藤です。

続きまして、資料5をご参照願います。令和3年度住吉区総合防災訓練の実施概要についてでございます。

実施目的といたしまして、区災害対策本部の初期初動体制の実効性の検証を行うとともに、災害対応能力の強化、また災害時における新型コロナウイルス感染症を考慮しつつ、各地域が迅速かつ円滑に避難所の開設・運営が行えるよう、地域の総合的な防災力の向上をめざす目的として実施をさせていただきたいと考えております。

なお、令和3年度につきましては、これまで住吉区災害対策本部と地域とが一斉に訓練を実施させていただいておったところでございますが、区役所の災害対応能力の向上と地域の防災力の向上、それぞれ特化した訓練をすることによって、よりそれぞれの力の向上をめざすこととしまして、別々に実施をしていきたいと考えておるところでございます。

具体的には、各地域における訓練といたしまして、毎年11月の第2土曜日ということで、令和3年11月13日の土曜日、9時から12時の間で実施を検討いたしております。

実施場所につきましては、区内の災害時避難所、各町会一時避難場所、また住吉区役所ということで考えております。災害時避難所は、各地域の要望と状況に応じまして、開設する訓練場所を決定してまいりたいと考えております。

想定訓練につきましては、震度6強の直下型地震が発生したという状況で、発災時刻等は検討中でございます。

参加者につきましては、区内の12地域活動協議会及び区役所、区役所につきましては、先ほど申しました区役所の災害対応能力に特化した訓練と分けるということで、区役所につきましては、全員ではなくて、避難受入班として避難所の開設・運営訓練を地域の方と一緒にさせていただく職員と、避難所や福祉避難所などと連携をしながら進めていく保健福祉班が、この11月13日の訓練と一緒に実施していきたいと考えております。また、大阪市職員の中で住吉区に居住しており直近参集者に選任されている職員、そのほか各関係機関等についても、13日に合同で訓練をさせていただきたいと考えております。

訓練内容につきましては、区役所のほうでは、各地域の災害対策本部と地域災害対策本部との通信訓練を無線でさせていただきたいと考えております。また、各災害時避難所への職員の派遣も行ってまいりたいと考えております。

各地域におきましては、今年度、新型コロナの関係で見合せをさせていただいております町会本部の設置訓練につきましても、実施のほうを検討していきたいと考えております。

す。

また、重点項目といたしまして、一時避難場所から災害時避難場所への避難訓練、また地域災害対策本部や避難所運営委員会の設置・運営訓練のほうも実施してまいりたいと考えております。

各関係機関との連携訓練といたしまして、i i s u m i と E M I S を活用しました情報収集訓練もしていきたいと考えております。関係機関のほうは、福祉避難所、緊急入所施設、大阪急性期・総合医療センター、住吉区社会福祉協議会と連携した災害ボランティアセンターなどを実施していきたいと考えております。警察、消防署さんとも連携できたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、裏面めくっていただきまして、こちらは、区災害対策本部の災害対応能力を向上するための訓練ということで、11月13日とは別日で実施をさせていただきたいと考えております。大阪市危機管理室の藤本参与にコーディネーター、講師をお願いして実施していきたいと考えております。

研修につきましては、令和3年10月中下旬を予定しております。この研修を踏まえて、それぞれの役割を認識していただきながら、図上訓練ということでロールプレイング訓練、状況付与訓練を実施していきたいと考えております。こちらのほうは令和3年11月の下旬の予定で実施をしていきたいと考えております。場所につきましては、住吉区役所で実施をしていきたいと考えております。

訓練想定につきましては、地域と同じく、震度6強の直下型地震の発生ということで、発災時刻については検討中でございます。参加につきましては、区役所の先ほどの保健福祉班と避難受入班を除く、庶務班、救助班、調査班の3班の職員を対象に実施してまいりたいと考えております。また、訓練内容につきましては、区役所災害対策本部における訓練ということで、災害対策本部機能の向上をめざした訓練を実施してまいりたいと考えております。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況によりまして、総合防災訓練の実施概要の変更の可能性がございます。先ほどの地域の訓練、町会本部の訓練であったり、一時避難所から災害時避難所への訓練につきましても、新型コロナの感染状況も注視しながら、できる限り実施してまいりたいと考えておりますが、状況によっては変更をさせていただくこともございますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、ご質問等いかがでしょうか。ご提案になるかもしれません。こういった訓練がいいのではないかとか。

最初に畑委員に伺いたいんですが、昨年度9,000人、今年度1,000人規模の訓練になったわけなんです、今年の11月頃を想定するのは難しいかもしれないんですが、従来どおりの規模の訓練ができそうか、あるいはやはり少し人数を減らしたほうがいいのではないかとか、その辺りいかがでしょうか。

【畑委員】 そのときの気候にもよると思うんですが、特に暖かい日が続けば、まず感染のというか、今は症状のある人を一応測っているということになっていますので、コロナを持っていてもけろっとしている人は積極的に測ってないので、やっぱり熱をどれだけ出すので結構左右されているんじゃないかなと思っております。予想ですけれども、ワクチンもちよっとずつ打っているということもありますので、規模は大きめに、去年よりは今年のほうが大きくなるんじゃないかなと予想しております。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほかにご提案等いかがでしょうか。

原田委員、お願いいたします。

【原田委員】 原田です。

先ほどから北さんとか福留さんのほうから、なかなかうまくいかないなあということおっしゃっていたので、私どものが参考になるかもわかりませんが、一応、私ここは、ある程度、皆、前向きな方向に向くようになってきました。それで、まず最初に私になったときには、防災リーダーが22人ほどおるんですけど、その半分の方は避難所に直来いと。あとの半分の人たちは自分とこの一時避難所で、町会長等と一緒にあって一時避難所の世話をすると。それから、今度、一時避難所から全体の避難所に来るときには、後から来た場合も防災リーダーは一応ほかの人と一緒にあって防災リーダーの仕事をする。

最初に来る人たちの中で、今おっしゃっていたように来ない人もいます。また、本当になったときに帰宅困難者とか、そういうことも想定しますので、まず来た人の中でその場ですぐに、あなたはこの仕事をしてくださいというのを毎回の訓練で違う役をつけております。いろんなことを見守ってもらうとか、世話ができるような形で、皆さんは防災リーダーという名前がついとるんやから、ほかの方々のリーダーになって避難所を開設するときには頑張ってもらわなあかんよというふうな格好でやっているんです。

それで、一時避難場所のほうには、町会長と、それから防災リーダー、ほかの役員さん、一般の方、避難してこられる方という形で、一応、そちらのほうと、それから直で来る人たち、初めから各町会に、例えば各町会に2人、3人の防災リーダーがいるんですけど、そのうちの1人は出せということで、学校のほうに来る。私がもちろん最初から避難所開設に出かけますので、ほかの方々は、とにかく何人かはそういう形をつくっておかないと、本当になったときに2人か3人しか来ないというような状態では困るということ。

もう1つは、女性部長の方々を一緒に巻き込んでと言うたら言葉は悪いですけど、取りあえず女性の方に、炊き出し等もありますので、それで、女性の方たちというのが一番引っ張ってくれるんです。防災リーダー、町会長はあきません。でも、女性のリーダー、女性部長の方々は、何すればいいですかというような格好で、一番最初に駆けつけてやってくれますので、こういう方々に一緒に中へ入っていただくというような格好でやっていると、意外と私どもの場合はうまくいくようになりました。

だから、そういうのもちょっと。皆さんとこはどうなっているかちょっと分からないんですけど、3月25日でしたっけ、に防災部長会議があるんですけど、その場所で言うたほうがいいのかもわからんですけど、取りあえずそういうふうな格好で今までやってきて、割にうまくいくようになった。

もちろん私とこの場合は大和川が決壊するとかいうような問題も身近にあります。ですけど、住吉区の総合防災訓練は地震ということでやりますので、我々のところではそういうので、ほかの日に川が氾濫するということもやっていかないかなということでは、皆さんも自覚しているんですけど、何でやってくれないんだみたいな話になるんですけど、一応総合防災は地震ということでない、長居のほうの人たちは、「そんな大和川が決壊したって知らんがな」という人たちになるので、共通の訓練ということになるとやっぱり地震になってくるのでね。それもありますけども、地震も、私とこの場合は熊野街道というのが走っておるんですけど、この辺に地震の、どういうんですか、ずっと流れているというか、断層があるので、私とこの場合も150メートルぐらいのところ、熊野街道ですので、ほとんど。それと避難所の小学校も、西側と東側で分断するんじゃないかなというようなところですので、いろんなことで皆さんも危機感も持っている方が非常に多いということもあると思うんですけども、一応私から、女性部長と一緒に連れて行ってごらんというか、うまくいったよというふうに思いますので、参考までにお話ししておきます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

【佐藤地域課担当係長】 ありがとうございます。

畑委員からは、コロナの状況の中で訓練の規模についてご助言をいただきまして、ありがとうございます。委員おっしゃるように、当然いろんな要素がございます。気候とか、いろんな要素があるかと思えますけども、私どもとしては、以前のようにとはなかなか厳しいかもしれないんですけども、できる限り北委員おっしゃるように、町会の方も含めて、ある程度は地域の方にもご参加いただきながら、継続性を持って防災力の向上につなげていきたいなど、一方でそういう考えも持っております。

対象者を絞るということでありましたら、広報紙等で広く一斉に参加を呼びかけるという方式がちょっと困難になってきますので、実際、一時避難場所での訓練の人数、また災害時避難所での訓練の人数、どういった人数が妥当なのかというのも、今後いろんな状況も見定めながら検討していきたいと考えておりますし、引き続き皆様からのご助言もいただきたいと思っております。

原田委員からも、貴重な遠里小野地域での取り組みについて情報共有をいただきましてありがとうございます。委員おっしゃるように、3月25日には災害救助部長会議で各地域の救助部長にも集まっていたいただいて情報共有をさせていただきたいと思っておりますので、そうした場でもまたフィードバックをしていただいて、この令和3年度の総合防災訓練にもつなげていきたいというふうに思っております。ありがとうございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

じゃ、先に上田委員、お願いします。

【上田委員】 すみません、上田です。

防災訓練の中身についてどうのこうのという、ちょっと違うかもしれないんですが、防災に対しての意識が地域によって温度差があるということと、あと、万が一、被災されて避難所に行かざるを得ないとなったときに、避難所での過ごし方というのを区民の方にもっと啓発する必要があるんじゃないかなというふうに思います。例えばなんですけども、私どもは福祉避難所という役割を担うんですが、先ほど話がございましたが、数年前の台風があって警報が出たときに、一般の地域の方がうちの施設に避難してこられたんですね。

「いや、うちは福祉避難所なんです」という話をしたんですが、何が一時避難所で、何が災害時避難所で、何が福祉避難所であるということが、やっぱり分かっておられない方も中にいらっしゃるんで、その辺の啓発活動といいますか、区から発信していただくということ

と、先ほど冒頭に37度5分以上の方は療養室に行っていただくということも、それも区のほうからもっともっと発信していただければ、地域の方がそれに困らないんじゃないかなと。37度5分以上の方は有無を言わずこっちの部屋になるんですということ、区のほうからどんだんだんだん発信していただければ、ある程度、地域の方もご理解いただけるんじゃないかなという、その辺の発信方法、発信というんですかね、その辺をもっと徹底していただけたら、実際避難所を開設された地域の方というのも大分助かるのではないかなというふうにちょっと思いました。

以上です。

【佐藤地域課担当係長】 ありがとうございます。上田委員から貴重なご意見をいただきました。委員ご指摘のとおり、やはりそういった災害時の避難行動というのは非常に重要なウエイトを占めてくると思っております。

今年度も、ちょっと紙面に限りはあるんですけども、「広報すみよし」を使いまして、コロナ禍での避難のあり方について掲載もさせていただいております。また、今回は水害時の避難に特化して全戸配布をさせていただいたんですけど、水害時の適切な避難行動といったことも、在宅避難と絡めながら、自宅が危険か安全か、どう身の安全を確保するのかという、フローチャート図的な簡単なものになるんですけども、そういったものを用いて、全戸配布で啓発もさせていただいております。委員からおっしゃっていただいているように、引き続き、どのような掲載をすればより区民の方により伝わるのかということも、検討してまいりたいと思っております。

また、区役所のホームページのほうでも、委員おっしゃっていただいている各避難所、災害時避難所、一時避難場所とか広域避難場所とか、福祉避難所、水害時避難ビルというのも掲載させていただいてるんですけど、なかなか見ていただくところが難しいところもございますので、そういうアピールの仕方も検討していきたいと考えております。ありがとうございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、畑委員、お願いいたします。

【畑委員】 医師会の畑です。

先ほどの北委員のいろいろの苦悩を聞くと、本当に身のつまされるような思いで、何とかせないかなと。1つあれなんですけど、私も正直言うて最初防災ってあんまり意識なかったんですけども、防災士の授業を全部を受けますと、やっぱり人間変わりましたね。

防災士という、きちっとトレーニングというか授業を受けた人というのは人が変わりますのでね。前は、結構、ここの区役所の人も防災士の何かコースに行かれていたと思うんですが、北さんところでは防災士の人とかは？

【北委員】 私ともう1人。2人だけです。

【畑委員】 ああ、そうですか。もし可能であれば、北さん、苦しんでいるところを重点的に、防災士になるチャンスをちょっと与えてあげるといいかなと思いますので、また、よろしくご検討ください。

【佐藤地域課担当係長】 生田委員長、防災士のほうは、来年度は今ご検討されておられるという状況ですね。

【生田委員長】 7月頃になると思いますが、市大のほうで開講予定になっております。

【佐藤地域課担当係長】 ありがとうございます。区役所のほうでも、そうした大阪市立大学から情報提供がございましたら、その情報を地域活動協議会のほうに提供させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【生田委員長】 ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、ありがとうございます。まだまだ議論し尽くせないこともあろうかと思いますが、時間の関係もございますので、この辺で一旦議論については終了させていただきたいと思えます。何か、これだけは最後に言っておきたいということがある方いらっしゃいますでしょうか。言い忘れたとか。よろしいですか。

はい、ありがとうございます。

では、今日、議論のところなんですけど、総合防災訓練のお話であったり、コロナが日本で本格化してもう1年、あっという間に1年ということで、この1年間、地域で防災に関われる皆さんは本当にご苦労が多かったかと思えます。そんな中ではいろいろと工夫もされて、本当に真摯に問題に向き合っていて、日々苦悩されているということがよく分かりました。

我々のほうで年末に調査したところ、分散避難という言葉が大分広まっているようで、大体半分ぐらい、5割ぐらいの方は分散避難ということを知ったことがあるということになっていましたので、やはりコロナのこともあって、避難所の在り方とか避難の在り方というのを、何か一般市民の方ももう一度考え直している可能性が高いのかなという気はします。さらに、コロナがこういった状況でいろいろあるが、避難所に行きますかとい

う質問に関しては、大体1割ぐらいの人は行きたいと。コロナがあろうとなかろうと行きたいということで、それはそれでまたやっぱり切実な数字なのかなというふうに思います。コロナもあるんだけど、やはり自宅が不安だとか、津波で浸水してしまうとか、そういう方もいらっしゃいますので、そこはやはり避難所に行きたいという方も一定数いらっしゃると。あと3割ぐらいの方は、コロナの状況によっては避難所に行くか行かないかを考えたいとか、そういった数字も出ていますので、また何か参考にさせていただきつつ、今後の避難所運営をまた考えていただければと思います。

あと、北委員や福留委員から、本当に防災の中で一番究極の課題というものを問いかけられまして、これに関しては、我々も含めて日々いろいろな方法を今試しているというところがありますので、何はともあれ、とにかくこういった場で情報共有するというのが一番いいのかなというふうに思っております。

畑委員からも防災士の話がありましたが、住吉区で防災士を取られた皆さんでLINEのグループなんかもできておりまして、そこでも日々いろんな情報が飛び交っているということで、とにかくいろいろな方法でいろいろな人たちが防災にちょっとでも関わっていただくきっかけをつくっていくと。そうすると裾野もどんどん広がるかなと思っておりますので、来るべき災害といいますかに備えていくには地道なこういう取り組みも大事かなと思っております。

あと、来年度の訓練も震度6強の地震を想定ということなんですが、これ、訓練ですごい地震を想定しているのかなという気もするんですが、6強に関しては、先日の東北のほうの地震、10日ぐらい前ですかね、まだそんなに時間たっていないんですが、あれが6強だったんですね。ですので、6強というのはとんでもない大きな災害ではなくて、いつでもやっぱり起こり得るということで、もう一度、訓練は訓練なんですけど、これは本当に身近に起こり得るものだという形で備えていただければと思います。

ということで、ちょっと長くなりましたが、以上でまとめは終わりにしたいと思います。委員の皆様、ありがとうございます。

引き続き、市会の多賀谷先生からも一言いただきたいと思っております。

【多賀谷議員】 どうも皆さん、ご苦労さんでございます。市会の多賀谷でございます。今日は本当に皆さん、ありがとうございます。ご苦労さんでございます。この真摯な議論、ほんとにありがとうございます。

私も、今、畑先生のほうからワクチンを打った方がいいという話があったんですけど、

僕も実は絶対最後に打とうと思うてたんですけど、最近は心を入れ替えて、早めに打とうかなというふうに思っています。

いろいろあるんですが、今、このパンデミックのときに避難所運営って本当にできるんかというね、いろいろやっていますけども、実際はかなり困難ではないかというふうに思っています。そのためにはやっぱりワクチン接種を防災の意味からも当然打っておけば、こういう時期の避難所運営のストレスは大分低下するんじゃないかというふうに思っています。接種券が来て、それで2回打てば証明書も出るんですよ。

我々もいろんな会議に出るときに、例えば今までだったら席を空けているとかいうのと同じように、マスクをすると同じように、何らかの証明書として、コンサート行くにしても、これが必要になってくるかもわからないですよ。だから、ぜひ区役所の皆さんには、なかなか既往症の問題とか、アレルギーの問題で打てとは言われないうんだけれども、なるべくリスクなり、いろんな問題を軽減するためには、ぜひ打ったほうがいいということで、いろんな進め方を検討していただけたらありがたいかなというふうに思っています。

もう1点、避難所なんですけど、ある国会議員がコロナにかかったときに、僕、何人か、後でうわさで言われたんですよ。「おまえ、パーティー行っとったやろう」とか「コロナになったんとかやうんか」とか、ものすごく広がるんですよ。だから、そういった意味で、避難所の中の運営で、こういう物資が足る足らないじゃなくて、そういうものに対処していかなければならない。お医者さんがいれば非常にいいでしょうし、それぞれの専門家がおられたらいいんですけども、やっぱりトラブルというものに対しても、物だけではなくて、そのことも当然だと思んですけども、いろんな避難所の運営の問題点もあるかと思うので、そういうこともちょっとまた教えていただいたらというふうに思っています。

以上でございます。本当にご苦労さんでございます。

【生田委員長】 ありがとうございます。

では、最後に区長からお願いいたします。

【平澤区長】 本日は、活発なご議論、どうもありがとうございました。非常に具体的な現実的な意見をたくさんいただきまして、今後、我々の訓練等に生かしていきたいと考えております。いろいろ地域の実情も教えていただきまして、我々で支援できるところは積極的にやっていきたいと考えております。

それにまた究極ですが、意識をどうやって持ってもらおうかというのはやっぱり非常に重

要かなど。何か災害があると結構意識が高まるといった状況もありまして、大阪でも地震があった直後はかなり防災意識も高まったのかなど。ただ年月がたつとどうしても慣れてきてしまうというところがあるので、その啓発には我々も力を入れていきたいと考えております。

今年水害ハザードマップを全戸に配布いたしましたけども、来年度も何らかの形で区民の皆様にお届けできるようなものは作りたいということで、今現在予算も計上して、今審議の途中でございますけども、予算が通ればそういったものも有効に使っていきたいと考えておりますし、また訓練についても、なかなか9,000人規模は難しいにしても、できるだけコロナの感染状況とかワクチンの状況も見ながら、多くの方に参加していただけるようにするとか、あるいはオンラインのような形で啓発をするとか、いろんな手法を検討してまいりたいと考えておるところでございます。また今後ともよろしく願いいたします。

ワクチンの接種の話も出ましたけれども、いつワクチンが供給されるのかというスケジュールが見えてないところもございます。住吉区としましては、区民センターとスポーツセンターの2カ所を接種会場に使いましてワクチン接種のほうもやっていきたいと考えておりますし、また、各個別の診療所でもご協力いただけるところ、また畑先生のところでご協力いただけるという力強いお言葉を聞いて、私ども非常に心強いんですけれども、そういったかかりつけ医でも接種していただけるような仕組みもまた進めていきたいと考えております。今後、そちらのほうもまたよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

【小林地域課長代理】 委員の皆様、本日も長時間、ご議論ありがとうございました。貴重な意見も頂戴しました。このご意見を区政のほうにしっかりと反映させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

来年度につきましては、年3回ということで、6月、10月、翌年2月ということで開催を予定させていただいております。また、日程につきましては、皆さんの日程を調整させていただいて、開催させていただきたいと思っております。このメンバーでの開催は、最後、来年の6月という形になりますので、よろしくお願い致します。

それでは、これで令和2年度第3回住吉区防災専門会議を終了させていただきます。本当にありがとうございました。